

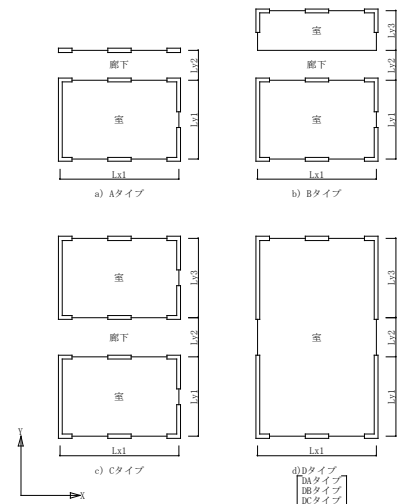
木造校舎の構造設計標準の在り方について 報告書(概要)

現行の木造校舎の構造設計標準(JIS A 3301)の概要

- 平屋・2階建ての木造校舎の構造設計標準を規定。
 - ・一般流通材を利用した在来軸組工法で魅力ある空間を実現
 - ・木造の設計経験の少ない設計者等においても、合理的に企画、設計が進められる
 - ・4種類のユニット形状を組み合わせることにより多様な空間を実施
- 昭和31年に制定され、平成27年改正以降大幅な見直しは行われていない。

木造校舎を取り巻く現状と課題

- 学校施設への木材利用の現状等
 - ・木造での整備は約15~20%
 - ・脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材利用の促進に関する法律の施行
 - ・学校施設への木材利用の意義:学習環境の改善、地域コミュニティの形成、地球環境の保全、地場産業の活性化など



公立学校施設の各年度における整備状況の推移

	R2	R3	R4	R5
木造施設の割合	19.1%	18.1%	14.8	15.6%

○学校施設の今日的課題

- ・安全・安心な学校施設、柔軟で創造的な学習空間への適応、脱炭素社会の実現への貢献、長寿命化

○大規模な木造建築物の現状と課題

- ・木造建築物に関する技術の進展
- ・大規模な木造建築物を企画・設計することができる技術者が少ない



木造校舎の構造設計標準(JIS A 3301)の在り方

- JIS A 3301について、現在の木造校舎を取り巻く現状と課題に対応した改正を行う。

《改正の概要》

- ① 金物工法等を利用したより合理的な構造とし、コスト縮減や工期短縮に配慮する。
- ② 耐久性や維持管理の容易性に配慮した材料を使用し、長寿命化を図れるものとする。
- ③ 自然採光を利用するため、ハイサイドライト(張弦トラス)を計画できるものとする。
- ④ 避難、維持管理及び日射遮蔽等に有効なバルコニーを設置できるものとする。
- ⑤ 快適で健康的な温熱環境確保と Nearly ZEB を達成できるものとする。
(屋上に太陽光発電設備が設置可能な構造計画とする)
- ⑥ 上階の床衝撃音に対する効果的な低減対策を講じた床を計画できるものとする。
- ⑦ 高性能の CLT 耐力壁等を新たに設定し、空間の自由度を確保する。

- JIS A 3301 改正に合わせ、「技術的資料」を整備する。

- ・木造校舎の計画・設計・維持管理に関する技術的事項など
- ・JIS A 3301 を用いた設計例(構造計算例含む)及び JIS A 3301 を応用する場合の留意事項